

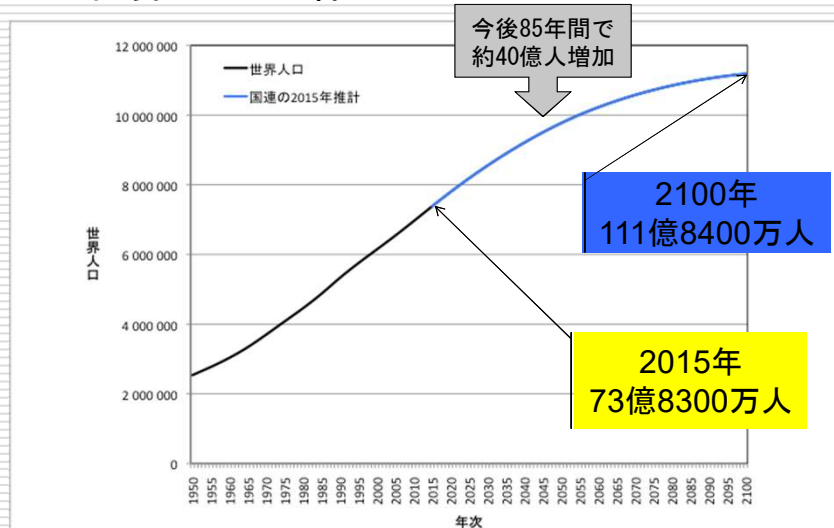
# 世界人口の将来動向と 国際ボランティア推進の必要性

原 俊彦 (札幌市立大学 教授・日本人口学会 理事)

「活力あるボランティア、榮譽ある台湾」—多元的ボランティア推進計画  
ボランティアサービス国際会議  
2017年8月6日 (日曜日) 台中市国立台中科技大学

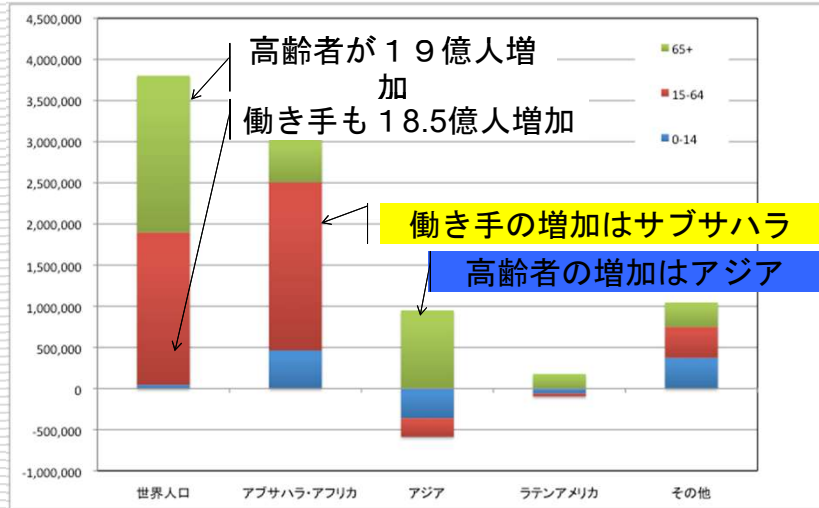
主論壇(國外4): 国際ボランティアサービスの特色及び発展の流れ (10:00-12:00)

## 1. 世界人口の増加



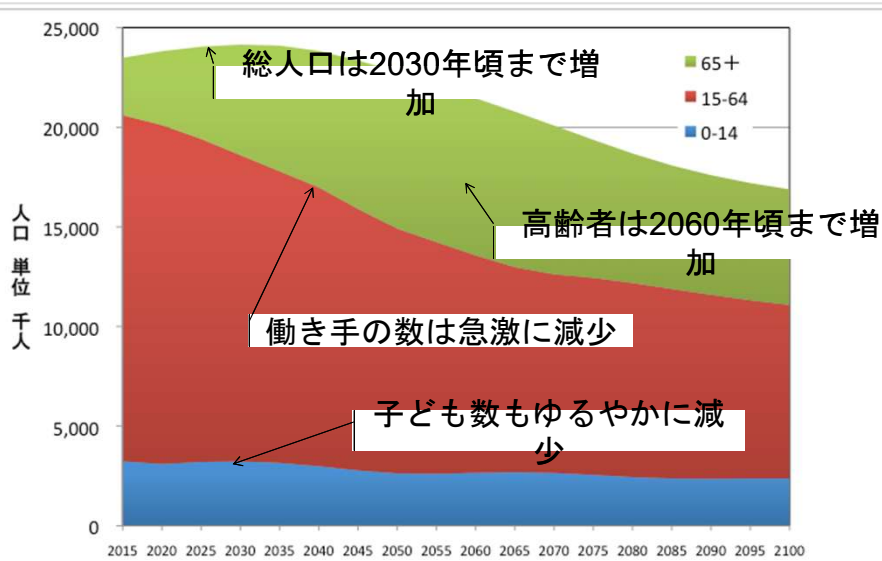
資料: 国連人口部 (2017) 「World Population Prospects 2017」 <https://esa.un.org/unpd/wpp/>より作成。2015年から2100年までは「中位推計MEDIUM VARIANT」。

## 2. 増加するのはサブサハラと高齢者



資料：国連人口部（2017）「World Population Prospects 2017」<https://esa.un.org/unpd/wpp/>より作成。2015年から2100年までは「中位推計MEDIUM VARIANT」。

## 3. 台湾の人口変化



資料：国連人口部（2017）「World Population Prospects 2017」<https://esa.un.org/unpd/wpp/>より作成。2015年から2100年までは「中位推計MEDIUM VARIANT」。

## 4.国際ボランティア推進の必要性

### □ 世界人口の将来

- 総人口は2100年まで約40億人増加する。人口増加の大部分は、アフリカのサブサハラで起きる⇒将来の働き手となる人口を育てる⇒国際的な医療・保健衛生・経済支援の必要性
- アジアでは高齢者が急速に増加、働き手や子どもは減少する⇒比較的豊かで健康な高齢者を中心とした国際ボランティア活動の展開⇒子どもや働き手の減少に備える。

### □ 台湾人口の将来

- 高齢者は2060年まで増加するが働き手の人口は今後急速に減少。
- ボランティアの主力: 若者から高齢者にシフト

### □ 高齢者の生きがいとしてのボランティア

- 平均寿命・健康寿命の延伸⇒元気な高齢者の増加
- 退職から死亡までの期間の長期化⇒第二の人生をどう生きるか？

## 参考文献・資料

HARA, Toshihiko(2014):A Shrinking Society: Post-Demographic Transition in Japan, Series: SpringerBriefs in Population Studies 2014, VI, 94 p. 20 illus. ISBN 978-4-431-54809-6  
Lam, David (2017) :The world's next 4 billion people will differ from the previous 4 billion ,N-IUSSP.ORG July 24, 2017, <http://www.niussp.org/article/the-worlds-next-4-billion-people-will-differ-from-the-previous-4-billion/>  
国連人口部 (2017)「World Population Prospects 2017」<https://esa.un.org/unpd/wpp/>

連絡先：原 俊彦 (はら としひこ)  
札幌市立大学 デザイン学部 (教授)  
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目 Tel: (直) 011-592-5860 (代) 011-592-2300  
FAX : 011-592-2374E-mail : t.hara@scu.ac.jp <http://faculty1.scu.ac.jp/hara/>

Toshihiko HARA  
School of Design, Sapporo City University, Professor (Ph.D.in Sociology)  
Geijutsu no Mori 1, Minami-ku, Sapporo 005-0864 Japan  
TEL.+81-11-592-2300 / FAX.+81-11-592-2369  
Dialin..+81-11-592-5860  
E-Mail:t.hara@scu.ac.jp <http://faculty1.scu.ac.jp/hara/>